

**THE FINAL REPORT OF THE 2ND ASIA
VOCATIONAL EDUCATION AND TRAINING
SYMPOSIUM (THE 2ND AVETS)**

**平成25年度
アジア職業訓練シンポジウム
報告書**

**平成25年11月30日
職業能力開発総合大学校**

目 次

・はじめに	2
1 アジア職業訓練シンポジウム報告概要	4
2 主催者挨拶	6
3 祝辞	6
4 (1) 東南アジアと日本の技術協力 /佐野 茂氏	8
(2) 卒業から現在までの紹介 (ベトナム) /チッ・ティエン・フン氏	11
(3) 日本発のモノづくり -ベトナム展開への期待-/岡部 敏弘氏	14
(4) 卒業から現在までの紹介 (ラオス) /シンダラー・インタウォン氏	18
(5) ラオスでの安全靴製造工場操業までの道のり/原 宏昭氏	21
(6) 卒業から現在までの紹介 (カンボジア) /スライ・ソピン氏	23
(7) 10年間の交流活動から見てきたもの/石川 末雄氏	27
(8) 東南アジア地域への国際協力 -日本と東南アジアが共に発展するために- / 合澤 栄美氏	30
5 総合討議とまとめ	36
6 編集後記	51
【写真資料】	
アジア職業訓練シンポジウム発表風景	54

はじめに

職業能力開発総合大学校（職業大）は、今年3月に相模原キャンパスと東京キャンパスを発展的に統合し小平の地に移転しました。

職業大は、1961年（昭和36年）に現在の小平市に設置され、一昨年創立50周年を迎え再び建学の地に戻ったこととなります。

本校は職業能力開発促進法の規定により国が設置するものですが、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構法（J E E D）等に基づき、国に代わってJ E E Dが設置・運営しています。

職業訓練指導員の養成、職業訓練指導員の能力向上のための研修、先端的な高度職業訓練、並びに職業能力開発に関する調査・研究を総合的に行うことを目的として運用・管理されています。職業訓練指導員養成事業の一環として、従来、4年制学士課程として「長期課程」を開設・マネジメントしてきました。

国費留学生制度は東南アジア諸国との政府間協定により、長期課程では1992年10月から国費留学生を毎年16名、研究課程では2001年4月から毎年2名受け入れ、職業訓練指導員・学士及び修士として育成してきました。

その数は合計で275名にのぼり帰国後は職業訓練指導員として出身国の労働行政分野及び民間企業で人材育成等にと重要な役割を果たしております。

また独立行政法人国際協力機構（J I C A）からの委託により、発展途上国からの現職業訓練指導員を受け入れ、その指導能力向上のための多様な研修を実施してきており、これまで90か国以上、1900名ほどの研修実績があります。

平成26年度からは留学生の受け入れとして現役職業訓練指導員の養成訓練課程を新たに創設し、3ヶ月間の日本語研修を経て本学では1年間、東南アジア諸国を中心に指導員の資質向上を図る事業がスタートします。

今後とも従来の実績を堅守し、国費留学生や開発途上国指導員との強固なネットワークを活用して、職業大がリード役となって開発途上国と日本とのより良き産業関係の構築、特に今後アジア展開を考える我が国のものづくり企業と現地のものづくり人材との円滑な関係構築に貢献できれば望外の喜びとするところであります。

このような観点から昨年の相模原キャンパスでの初回に引き続き、今年も「アジア職業訓練シンポジウム」を開催する運びとなりました。今回はアジア諸国の中でも最

近注目され始めているベトナム、ラオス、カンボジアの3国に焦点を当て職業能力開発上の相互協力について意見をいただき討論を行いました。具体的な内容は本編をご参照ください。

本シンポジウムが参加者の皆様をはじめとして、日本とアジア諸国との更なる職業訓練の相互発展に役立つことを祈念いたしております。

最後になりますが、今回の企画にご協力いただいた発表者の皆様と所属する企業、団体、小平市、現地進出企業、労働関係機関等に深甚なる謝意を表する次第です。また、本企画にご理解ご支援賜った厚生労働省、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構に対して感謝申し上げます。

2014年1月

職業能力開発総合大学校
校長 古川 勇二

職業大フォーラム

1 アジア職業訓練シンポジウム報告概要

The Report of Asia Vocational Education and Training Symposium: AVETS

○アジア職業訓練シンポジウム

平成 25 年 11 月 30 日（土）13：00～17：00

(1) ファシリテーター 古川 勇二 校長

(2) 発表者

東南アジアと・・・佐野 茂氏
日本の技術協力 職業大教授 能力開発基礎系

ベトナム・・・チッ・ティエン・フン氏（平成 21 年 3 月通信システム工学科卒業）
TMS 人材株式会社日本事業部部長

ベトナム・・・岡部 敏弘氏
青森県産業技術センター工業総合研究所所長

ラオス・・・・シンダラー・インタウォン氏（平成 21 年 3 月建築システム工学科卒業）
ラオス労働社会福祉省技能開発雇用局

ラオス・・・・原 宏昭氏
ミドリ安全株式会社フットウェア統括部
生産部購買グループ次長

カンボジア・・・スライ・ソピン氏（平成 22 年 3 月精密機械システム工学科卒業）
カンボジア国立ポリテクニク大学機械工学科

カンボジア・・・石川 末雄氏
愛知県額田郡幸田町国際交流協会会長代行

東南アジア・・・・合澤 栄美氏
への国際協力 独立行政法人国際協力機構（JICA）
人間開発部高等教育・社会保障グループ社会保障課長

(3) プログラムと内容

- 13：00 開会 主催者挨拶 古川勇二 校長
- 13：05 祝辞 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長
- 13：15 ゲストスピーカー紹介の後、シンポジウムを開始した。
- 13：15 当大学校佐野教授が調査訪問で面会したベトナム、ラオス及びタイの卒業生の活躍状況や 3 国の職業訓練、人材育成の最近の情勢などの意見や感想について訪問時に撮影したビデオを交えて紹介した。
- 13：30 ベトナム留学生、チツ・ティエン・フン氏が職業大で学んだ知識、経験をどのように役立てているか、母国と日本の価値観、文化、慣習の違いをどのように捉え、現在の業務に生かしているかを紹介した。(以下卒業留学生共通)
- 13：45 青森県産業技術センター、岡部敏弘氏が勤務する工業総合研究所はベトナムホーチミン工科大学を始めベトナム企業との交流が深い。11月にハノイで開催されるエコマテリアル国際会議に出席し会議の内容を通して現在のベトナム状況を発表した。
- 14：00 ラオス留学生、シンダラー・インタウォン氏が卒業～現在までの紹介をした。
- 14：15 ミドリ安全株式会社、原宏昭はラオスの首都ビエンチャン郊外に安全靴の生産工場を立ち上げるプロジェクトに参画した。工場立ち上げから従業員が数百名規模になるまでの過程を話題にラオスでの経験を紹介した。
- 14：30 カンボジア留学生スライ・ソピン氏から卒業～現在までの紹介があった。
- 14：45 幸田町国際交流協会の石川末雄氏から愛知万博でカンボジア国のサポーターとして支援活動を始めたのをきっかけに幸田町とカンボジアの交流が始まったことやカンボジアからの幼児教育教員養成局研修員を受入れ等の活動について紹介があった。
- 15：00 休憩 (20分)
- 15：20 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 合澤栄美氏が日本の開発途上国に実施する国際協力、とりわけ東南アジアで実施する様々な国際協力について紹介があり、今後の3国や東南アジアと日本の協力の在り方について発表された。
- 15：20 会場との質疑応答、意見交換
- 16：30 まとめ
- 17：00 閉会あいさつ

2 主催者挨拶

古川 勇二 校長

本日は土曜日にもかかわらず多くの方に参加いただき感謝します。昨年度から職業大の取り巻く環境が変わる中、海外の方々と国際協力についてはきちんと相互協力をしていると示した方が良いということで本シンポジウムはスタートしました。



昨年は東南アジア諸国のネットワークを生かしてタイ、マレーシア及びインドネシアの3か国について、我が国と3国との関係や職業訓練分野での本校の役割等について話し合いましたが、今年も引き続きアセアン諸国の卒業生を招いて開催する運びになりました。

また今回から全国の職業能力開発研究発表講演会と統合したため日程がタイトになった教職員もいるかと思いますが、趣旨をご理解いただけるとありがたいと思います。

対象国や発表者はプログラムをご覧くださいと思いますが、お招きした卒業生は各国で先生をしている方々です。ですから生徒を教えて民間企業に就職させるという概ね日本と同様の形ですので海外展開を考えている企業の皆様方には東南アジアの先生方とお知り合いになって、今後交流や関係を持ちたいということであれば、後ほど討議の時間を予定しておりますので質問等をお願いしたいと思います。また国内発表者の方々も各国の事情に詳しい方をお呼びしています。前半は発表者からのお話を聞き、後半はそのお話を基に討議し、取りまとめて行きたいと思いますので闊達なご意見、質問を期待しております。

時間は午後5時までと限られた時間ですが、ご興味がある方はその後も本日の発表者の方々と連絡を取られ、東南アジアと日本の職業能力開発、職業訓練と工業の発展に何らかのきっかけを作っていただければたいへんありがたいと考えます。よろしくお願ひします。

3 祝辞 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長

アジア職業訓練シンポジウムの開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、当シンポジウムが開催されますことを心よりお慶び申し上げますとともに、職業能力開発総合大学校の古川校長をはじめ、日頃から国際協力に携わっておられる御列席の皆様へ深く敬意を表します。

当機構におきましては、これまで我が国の開発途上国等との政府間技術協力事業への支援としまして、約8千人に上る海外技術研修員や国費留学生等の受入事業、また、約2千人の調査団や技術協力専門家等の派遣事業等を行い、職業能力開発分野の国際連携・協力を推進してまいりました。

その中で、職業大は、政府間技術協力事業の拠点として留学生受入事業については、昭和55年から私費留学生をまた、平成5年から国費留学生を受け入れそれぞれ長期課程及び研究課程において開発途上国の職業能力開発分野の指導者養成に資する訓練が実施されてまいりました。

これまでに、私費留学生及び国費留学生を合わせ、長期課程又は研究課程において、延べ300名近い卒業生を送り出し、その多くの方々が母国において職業訓練指導員や政府・関係機関の職業能力開発部局の管理職等として活躍し、母国の発展に大きく寄与されているところであります。

留学生受入事業においては、募集、選考から日本語教育を経ての入学・卒業・修了、帰国後のネットワークによる連携に至るまで長期的かつ広範な対応が求められるものであり、特に、留学中の学生に対する生活・精神面の支援としてチューター制度やコーディネーター制度等によるきめ細やかな対応が行われるなど、ご苦労も多かったものと拝察するところであります。関係各位のこれまでのご尽力に対し、厚く御礼申し上げます。

本日のシンポジウムには、各国の職業能力開発分野において活躍されている卒業生の方々が参加されるとともに、休暇をとり母国よりかけつけていただいた卒業生も来場されていると伺っておりますし、本日来場できなかった卒業生からは開催を祝うメッセージが届いているとも聞きたいへん嬉しく思っております。

また、海外職業訓練指導者養成事業については昭和38年以降海外技術研修員職業訓練コース等の集団研修コース及び個別研修コースにおいて、延べにして約1,800名にも上る技術研修生等をJICA等を通じて受け入れ職業大が有する海外職業訓練のノウハウ等を活用し、発展途上国が抱える職業訓練指導者のスキルアップなど人材育成の課題の解決に向けて、積極的に実施されてきたところであります。

このように、職業大は、職業能力開発の側面からの我が国の国際連携・協力を推進する拠点として多大な足跡を刻んできたところであり、職業大における国際貢献の歴史がそのまま我が国の職業能力開発分野における国際協力の歴史と言っても過言ではありません。

本シンポジウムでは、これまで職業大の担ってきた事業を通して卒業留学生、地方自治体及び政府関係機関における専門家、更にはアジア諸国で活躍されている企業の方々等を交え国際協力や貢献の在り方、グローバル人材の育成等について事例のご紹介や意見交換がなされると伺っております。

今回のシンポジウムにより、ベトナム、ラオス及びカンボジアの3国との協力体制が一層強固になるとともに、職業大においては今回の成果をもとに喫緊の課題であるグローバル人材の養成に資するとともに今後ともアジアを中心として開発途上国の職業能力開発に寄与されることを期待しております。

最後になりますが、日頃より留学生を支援いただいている関係者の皆様に今後とも当機構と職業大へのさらなる支援をお願いいたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日のシンポジウムの開催、誠にありがとうございます。

4 発表内容

東南アジアの職業訓練

(1) 佐野 茂

「東南アジアと日本の技術協力」



今回のアジア職業訓練シンポジウムではラオス、ベトナム、カンボジアの3カ国から卒業生を招いて行われることから3カ国に共通する内容について「東南アジアと日本の技術協力」という題目で発表があった。

内容は1. アセアン諸国連合経済圏、2. CLMV（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）諸国の歴史、3. 日本と東南アジア諸国連合との外交の歩み、4. 東南アジアの工業化について、5. ベトナム、ラオスを調査して取材したビデオの紹介：ベトナムのTMS人材（株）会社の日本語学校、ベトナム労働傷病兵社会省、ラオス労働社会福祉省技能開発局、ラオス職業訓練校、女性職業訓練校、ビエンチャン県職業訓練校、ラオス・トヨタ自動車修理工場、について順に話がなされた。

1. ラオス、ベトナム、カンボジアの3カ国が属するアセアン諸国連合（ASEAN）は2015年の統合に向けて準備をしているところである。このASEANは1967年にインドネシア、タイ、シンガポール、マレーシア、フィリピンの5カ国により結成されたが次第に加盟国が増え現在では10カ国になっている。



アセアン諸国連合の人口は約6億人、域内総生産（GDP）は2.3兆ドル、平均成長率は5.4%が予想されている。経済規模は日本の半分弱だが、高い成長力を持ち将来が期待される経済圏である。

域内では生産ネットワークが形成され、産業集積（タイのバンコクの周辺、ベトナムのホーチミン市周辺、大メコン流域6か国で国境を越えたインフラ整備）が進んでいる。

また域内では多様性が生まれている。例えばシンガポールは金融サービスのハブとなるなど、役割分担も次第に明確になってきている。

2. アセアン諸国連合においてカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムの4カ国はCLMVの連携を形成している。アメリカとソ連の東西対立に翻弄された歴史をもっているが、現在では歩調を合わせて近代化に努力している。

◎カンボジア：クメール文明の中心地（アンコールワット）、クメール文字、宗教、仏領

(1867-1953)、独立後、原始共産制社会（クメール・ルージュ、ポル・ポト 100 万人死者、避難民）から王国へ

◎ラオス：タイと近い関係、仏領（1893-1953）、独立後、王国から人民民主共和国へ

◎ベトナム：民族王朝、仏領（1887-1945）南・北に分かれて独立、ソ連の援助を受けてアメリカと戦い社会主義共和国（南北は 1975 年統一）、2012 東南アジア最大の鉄鋼会社稼働

3. 日本と東南アジアとの外交の歩み

- 1955 アジア・アフリカ会議で日本は経済協力で貢献する方針を示す。
- 1958 日本、ラオスと経済・技術協力の調印をする。
- 1970 東南アジア閣僚会議で日本の財政援助拡大を共同声明、GNP の 1%を開発援助（10 年間）を約束する。
- 1977 福田赳夫元首相がマニラで東南アジア外交の基本原則を表明した。

(1)日本は軍事大国にならないことを決意し、世界の平和と繁栄に貢献する。

(2)東南アジアの国々と、社会・文化など広範な分野で真の友人として心と心のふれあう相互信頼関係を築く。

(3)「対等な協力者」の立場で東南アジア全域の平和と繁栄の構築に寄与する。

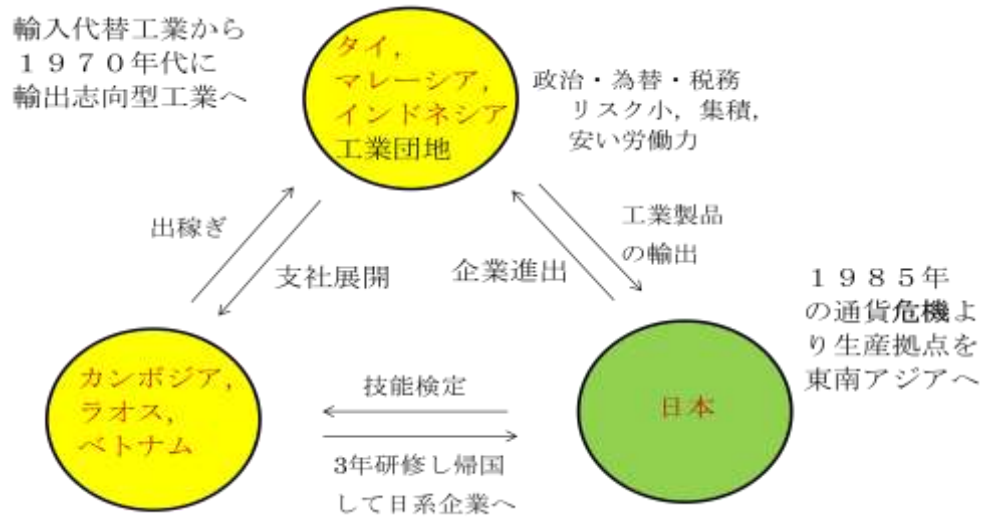
以上の三つの原則からなる。（福田ドクトリン）

- 1983 中曽根首相東南アジアを訪問する。
- 1990 カンボジアに関する東京会議が開催される。カンボジアは日本の天皇制を見習い原始共産主義より王制にもどす。
- 2013 安部首相東南アジア訪問し日本外交の 5 原則を発表:福田ドクトリンを信奉し、日本と ASEAN は対等なパートナーとして自由で、オープンで、力でなく、法の統（す）べるところとなるよう共に働かなくてはならないと信じます。

4. 東南アジアの工業化

東南アジアでは輸入代替工業が一般的であった。これは高い関税をかけて自国の工業を守るという政策だが、中々自国の産業が育成できないでいた。そこで 1970 年代になり、外国から資本を積極的に入れ産業を起こそうと方針転換をはかり工業化が進んでいる。タイ、マレーシア、インドネシアの工業団地に欧米企業と共に日系企業も多数進出している。カンボジア、ラオス、ベトナムからは多くの人たちがこうした企業に出稼ぎに出かけている。1985 年のアジア通貨危機では欧米の資本は多数引き揚げたが、日系企業は高い円高を利用して積極的に投資を続けていった。その結果、日系の企業が集積して生産活動はやり易くなっている。

行政側も日本の技能検定を広め、良い技能労働者を育てるようにバックアップをしている。PTU の卒業生もこうした技能検定の試験問題の作成や実施を行うなど、重要な責務を果たしている。



5. ベトナムとラオスの職業訓練施設や日系企業を訪問したビデオの紹介。

フンさんが働くベトナムのTMS人材(株)会社の日本語学校では、3か月間日本語を学んで日本で企業研修を3年行い、帰国して日系企業に就職するのを目指す若者の日本語クラスの説明をした。またベトナム労働傷病兵社会省では卒業生のソンさん、クオンさん達が技能検定を担当している。ラオス労働社会福祉省技能開発局ではシンダラーさんの仕事部屋そしてラオス職業訓練校、女性職業訓練校、ビエンチャン県職業訓練校での縫製の実習やコンピュータなどの授業を紹介した。ラオス・トヨタ自動車修理工場では作業手順の説明をした。



ラオス女性職業訓練



ベトナム労働傷病兵社会省で卒業生と面会

ベトナム発表者

(2) チッ・ティエン・フン

「日本・ベトナム 40 周年友好関係及び TMS 人材株式会社について」

2009 年に通信システム工学科 山寄研究室を卒業したフンさんからは標記のという題目で発表があった。

内容は、1. ベトナムの基本情報、2. 日越 40 周年友好関係、3. 日本に留学したきっかけ、4. 日本で留学してよかったこと、そして 5. 卒業後の就職活動についての順で話がなされた。

1. ベトナムの基本情報では、国土の面積が 32 万 9000K m²、人口 8,900 万人(2012 年現在)、首都はハノイ、宗教は主に仏教、キリスト教、カオダイ教などで、使用言語はベトナム語です。主要産業は、農林水産業、鉱業、軽工業で、1 人当たり国内総生産 (GDP) は 1,596 ドル (2012 年現在) となっています。実質 GDP 成長率 5.0% (2012 年現在) と高い数値で推移しています。

2. 日本・ベトナム 40 周年友好関係では国交樹立が、1973 年 9 月 21 日から今年 2013 年 9 月 21 日で 40 周年となり安倍首相が訪越され、国内各地で 170 以上の関係イベントが開催されました。これはベトナムが非常には親日的である一つの証になっています。

3. 私が日本に留学したきっかけですが、2003 年にハノイ工業大学を卒業して同大学で情報処理の教師として働いていた時に、技術協力で日本から派遣されていた JICA 専門家から職業大の受験を薦められたことがきっかけでした。

幸い合格して国費留学生として 2004 年 10 月に職業能力開発総合大学校通信システム工学科の学生として入校することが出来ました。

4. あれから 10 年近く経ちますが日本に留学して良かったと思う事は、まず「日本語」を勉強して会話できるようになって私の人生は変わりました。日本語に関わらず母国語のほかに日本語や英語などもう一つの言語を使いこなせるようになれば新しい世界が開かれると思います。私は日本語を学んだお陰で、日本の文化、風習、日本人の行動様式、考え方をある程度理解し、他の国の文化も理解できるようになりました。

情報通信工学の専門の知識は現在の職には直接的には関係ないので使う機会は少ないのですが、多分その時になれば、私の身体の血や肉となり頭のどこかに未だ残っていると思



いますので十分専門性は活かせると思います。

また職業大で得た一番大事なことは、友達間のネットワークです。卒業した留学生とは学科や学年、国を超え今も交流がありますし、同じクラスだった日本人学生とのことも忘れていません。

何より日本語が使用できるようになって現在の仕事にも就職でき、自分が受けた恩を日越の関係強化のために返すことが出来たらと思います。これからも日本とは密接に関係してベトナムとの架け橋となるのが自分出来る社会貢献だと考えています。

5. 職業大卒業後約3年間は、日本エネルギーセンター（JCOAL）の技術指導で採炭、選炭、通気等をベトナムに技術移転する仕事でした。場所はクアンニン省の炭鉱で通訳兼指導員をしていました。



和服の文化に触れる（筆者右端）



TMS 人材株式会社玄関前で

その後 TMS 人材株式会社に転職し、現在に至っています。TMS では、技能実習生派遣の事業を担当しており会社自体は急成長し、昨年は日本向け技能実習生派遣の送り出し企業としてはベトナムでベスト・スリーに入りました。現在、日本事業部営業課日本事業部部长として働いています。

日本へのベトナム人の送り出し職種は次の図の通りです。機械金属・建設関係で約 50% を占めています。技能実習制度を利用することにより、最長 3 年間日本で働くことが出来ます。

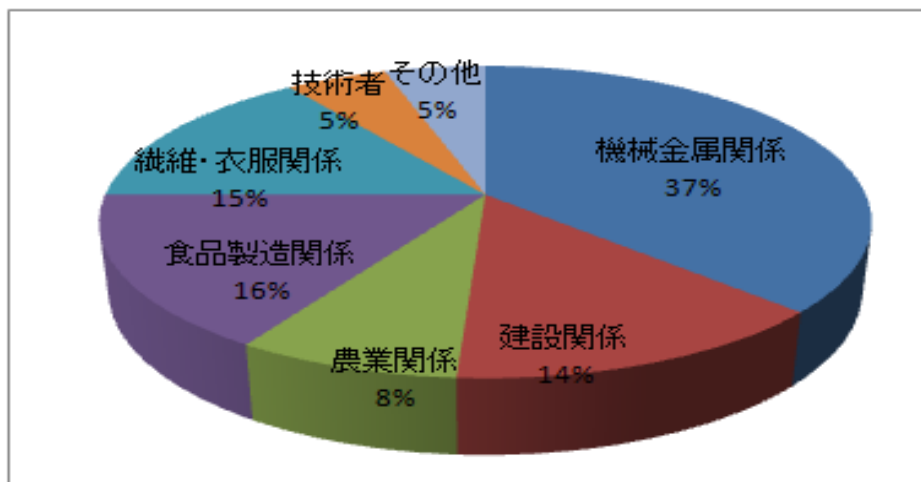


図 1 日本での技能実習職種

日本での派遣地域は次の図の通りです。実習派遣地域は全国平均していることが分かります。関東・東海ばかりだけでなく近畿、中国、北陸地方にも実習派遣先が多くあることが分かります。

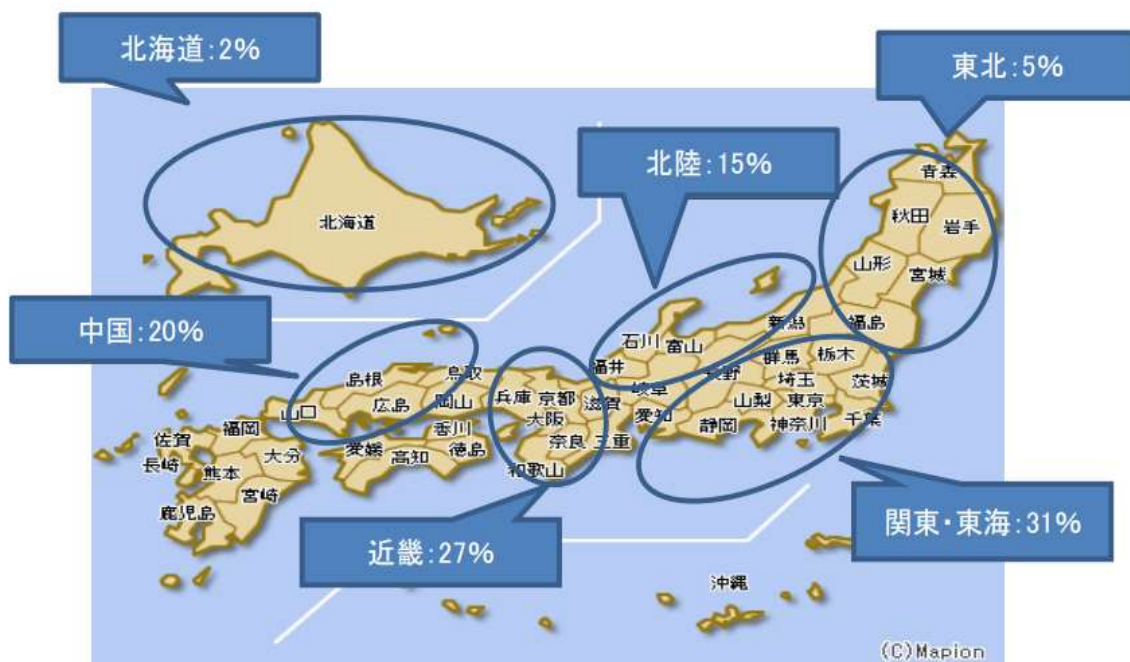


図 2 日本での派遣地域

ベトナム発表者

(3) 岡部 敏弘

「日本発のモノづくり - ベトナム展開への期待 - 」

表題のテーマで青森県産業技術センター工業総合研究所所長の岡部氏からベトナムの現況、国際会議等の紹介があった。

まず図3により南北に長いベトナムの特徴について説明があった。



図3 ベトナム基本情報

図4 ベトナムの輸出入品目
輸出入品目(億ドル)

輸出	2008年	2009年	2010年	輸入	2008年	2009年	2010年
原油	104	62	50	機械・設備	140	127	137
縫製品	91	91	112	石油製品	110	63	60
履物	48	41	51	鉄・鉄屑	67	54	80
水産品	45	43	50	織布	45	42	54
米	29	27	32	肥料	15	14	12
木材・木工 品	28	26	34	乗用車	10	13	10
電子部品	26	28	36	殺虫剤	5	0	5
コーヒー	21	17	19	クリンカー	2	1	1
ゴム	16	12	24	バイク	1	1	1
石炭	14	13	16	合計	752	700	850
合計	627	571	722				

(出所)ベトナム税関総局

ベトナムの輸出品目は図4の通りになっており、輸出品としては縫製品が多く、輸入品は機械・設備や鉄・鉄屑の量が増えていることから工業化が進んでいるのが分かる。また輸出入とも年々増えていることから経済活動が活発な事を示している

また若年層が多いことから労働力が豊富でこれから益々発展する要素を含んでいる。図5はベトナムの年齢別人口比率で10代～20代の男女の人口が他の世代に比べ非常に多いことにわかる。

人口ピラミッド

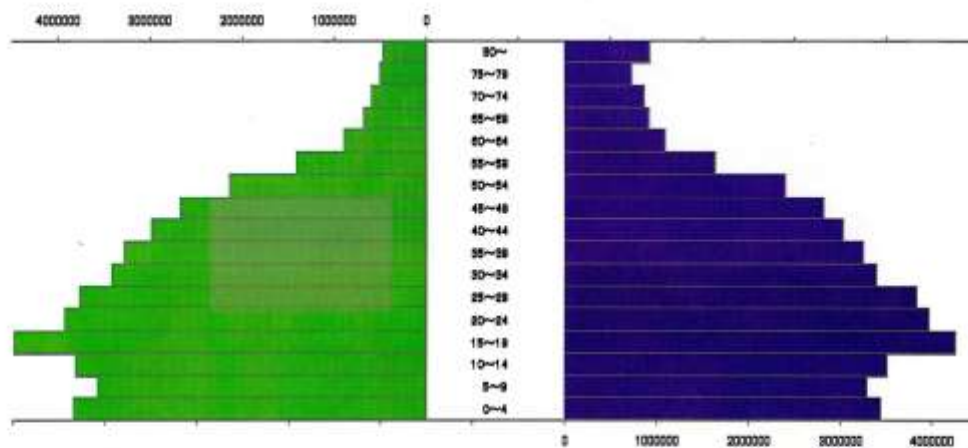


図5 ベトナムの人口ピラミッド

日本の対越新規直接投資(認可ベース)

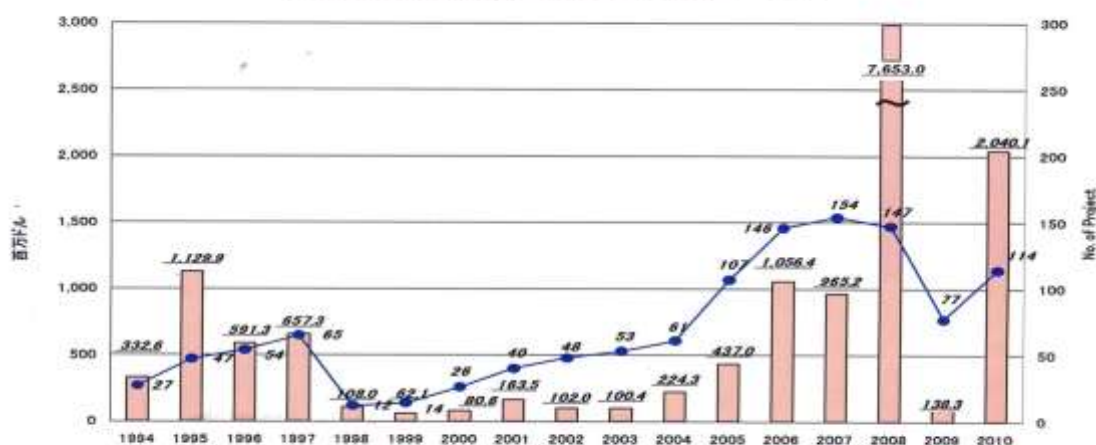


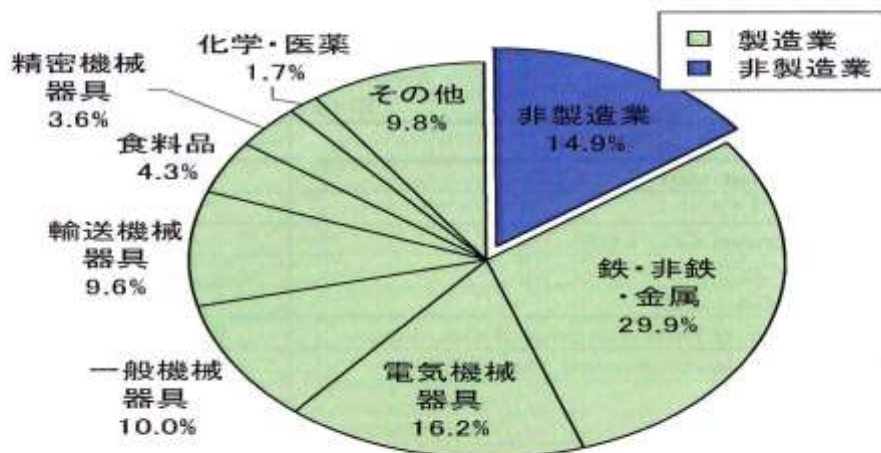
図6 日本のベトナムへの新規直接投資

(出所) 計画投資省 ※2010年はVneconomyの報道

Copyright © 2011 JETRO. All rights reserved. 禁無断複製

図6からベトナムへの新規直接投資額が近年急速に増加していることがわかる。

②日本からのベトナム向け業種別直接投資内訳(2009年)

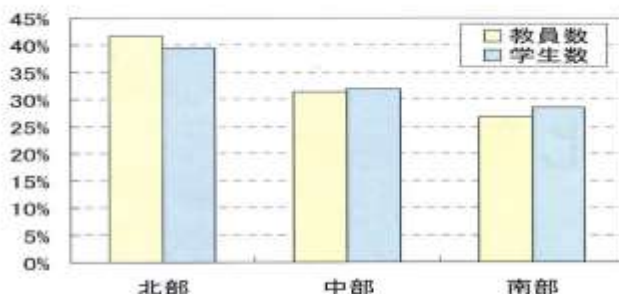


(出所) 日本銀行より作成

図7 日本からのベトナム向け業種別投資

また図7は日本からのベトナム向け業種別投資であるが、緑色のいわゆる製造業のほか、サービス業など非製造業も確実に伸びていることがわかる。

図表 序-11 地域別大学教員数と学生数



地域		教員数 (構成比)		学生数 (構成比)	
北部	ハノイ	18.1	24%	541.7	25%
	ハイフォン	1.9	2%	53.9	3%
	タイグエン	3.0	4%	75.4	4%
	その他	9.1	12%	171.9	8%
中部	ダナン	2.1	3%	56.6	3%
	トゥアティエンフェ	0.1	0%	1.2	0%
	その他	22.0	29%	622.5	29%
南部	ホーチミン	13.3	17%	434.3	20%
	カントー	1.8	2%	53.8	3%
	その他	5.5	7%	120.3	6%
合計		76.8	100%	2,131.5	100%

(出所) GSO より作成

図表8 地域別大学教員数と学生数の割合

ベトナムの大学について地域別の教員数と学生数の割合を比較したのは図表8で、教員

1人に対し学生が30人位となっている。北部ハノイ地域が教員数、学生数とも最も高く、中部ダナン地域や南部ホーチミン地域は、その数がやや下がる。



写真はベトナム工科大学キャンパス内で、学生が生き生きと学んでいる様子。

また、写真に写っているようにベトナムではオートバイでの通勤、通学が主流で生活の足として広く利用されている。

本シンポジウムの開催直前の2013年11月11日～14日の4日間、ベトナムにおけるエコマテリアル国際会議がハノイ科学技術大学で開催されたので報告する。

なお、英語で表記すると次のようになる。

Eco-materials Conference & Exhibition 2013, Green material, Green Industry, Environmental Technology for Sustainable Development in Asia.

Date: 11th-14th, Nov. 2013

Venue: Hanoi University of Science and Technology

	Nov. 11 (Mon)	Nov. 12 (Tue)	Nov. 13 (Wed)	Nov. 14 (Thu)
Morning	Registration	Oral Session	Oral Session	Factory Visit
	Opening Ceremony			10:00-17:00
Lunch		Exhibition	Exhibition	
Afternoon	Plenary Lecture	Oral Session	Oral Session	
	Poster Session		Closing Remarks	
Evening	Reception			

ベトナムにおけるエコマテリアル国際会議では、エコものづくりの展開の推進を主な議題として次のテーマを中心に会議が開催された。

1. 環境と調和し、環境と共生するものづくりの推進
2. 環境型ものづくりの促進
3. 循環型処理技術の推進
4. 環境保全活動への取り組み

私からはWood Serviceについて発表した。電力の自家発電などに利用が期待される。

ラオス発表者

(4) シンダラー・インタウォン 「卒業から現在までの職歴紹介」

2011年に職業大建築システム工学科を卒業したシンダラー・インタウォンさんからは「卒業から現在までの職歴紹介」という題目で発表があった。



1. ラオスの基本情報

面積が約24万K²で総人口は約660万人(2012年現在)、首都はビエンチャンである。宗教は、仏教徒が多く、国語はラオス語である。主要産業はサービス業、農業、工業である。国民1人当たり国内総生産(GDP)は1,399ドル(2012年)で実質GDP成長率8.2%(2012年)と日本の高度成長期に近い数字となっている。

2. ラオスでのインターンシップ経験

2011年に建築システム工学科を卒業して、労働社会福祉省技能開発・雇用局に就職する前に、まずラオスの建設状況を調査・理解のためラーセンヴィサイ建設会社という地元の建設会社に4ヶ月間インターンシップで就職した。これは貴重な経験となって生かされている。ラオスの建設会社の現状を勉強して建築設計者や現場監督などの技術者が不足しており、結果として技術、技能の力がないラオス人の雇用の機会が少なくなっており、ベトナムやタイなどからの海外技術者を労働輸入しなければならないという現状を把握できた。

3. 労働社会福祉省技能開発・雇用局での勤務 (Skill Development and Employment Department, Ministry of Labour and Social Welfare)

建設会社に4ヶ月間インターンシップを経験した後、2011年8月から現職についている。労働社会福祉省技能開発・雇用局は、①技能開発課 ②雇用課 ③開発計画課から構成され、私は現在、①技能開発課に所属している。

主に、技能競技大会企画、国内・国際交流など技能・技術の振興事業を担当と又技能検定及び審査基準作成を担当している。

**労働社会福祉省技能開発・雇用局
庁舎風景。元ホテルを利用した仮
庁舎で現在新庁舎を建設中である。**



4. 労働社会福祉省技能開発・雇用局での現在までの実績

技能検定及び審査基準を数人のスタッフとともに作成している。私が就職してから作成した基準は次のとおりである。

A. 建設部門技能検定基準作成（10 職種）

1. 家具製作
 2. コンクリート技能者
 3. くり型（装飾技術）
 4. 電気設備
 5. ガラス&アルミ
 6. 石造&左官
 7. 建築塗装
 8. 配管
 9. タイル張り
 10. 溶接
- （本ページ下の写真参考）

B. 自動車修理技能検定基準（7 職種）

1. 自動車エンジン
2. 自動車電装システム
3. 自動車シャーシ
4. 自動車用動力伝達装置と車軸
5. 車体塗装と補修法
6. 車体修理
7. エアコン修理

C. 2013 年現在作成中の技能

検定基準

観光技能検定基準（4 職種）

I C T（情報通信技術）

技能検定基準（6 職種）



上の写真は自動車修理 技能検定基準作成ワークショップ風景

建設部門技能検定基準
（10 職種）



5. 国内及び国際技能技術競技大会について

2012 年はラオスの初全国技能競技会を行い、ラオスの能力開発にとっては記念すべき非常に重要な大会となり約 100 人の競技者がそれぞれの競技職種に参加した。

技術競技会はアジアスキル競技会の基準に準拠して行われ、例えば 22 歳未満は 7 科目の競技種目、一般のスキルコンペ（22-50 歳）は 4 科目の競技種目を実施した。

又、2013 年 6 月には中国の全国専門学校技術競技会（China Vocational College Skill Competition）の自動生産ラインコンペ部門に参加した。他にもアジア国諸国のベトナム、インドネシア、マレーシア、カンボジアシンガポールやヨーロッパからはドイツ、アフリカからジンバブエなどが参加していた。

私はオブザーバーとしてチームに入り、ラオスチームは準優勝に入り、多くの好成績を残した成果ある大会となった。



自動化生産ライン競技会風景



**インドネシア卒業生先輩
と中国競技大会で再会**

ラオス発表者

(5) 原 宏昭

「ラオスでの工場建設と従業員教育について」



1. ミドリ安全株式会社概要

最初に会社の概要を説明させていただきます。当社の設立は1952年6月で、資本金：14億5,432万円です。事業内容は、安全靴、ヘルメット等安全衛生、保護具・フェイスおよびワーキング・ユニフォーム、空気清浄機などの環境改善機器、装置・健康医療機器、装置、電気計測器および皮革製品、製造販売となっております。

販売網は支社27、支店・営業所が45、販売会社が69社(133ヶ所)、グループ会社は国内18社、海外に13社となっており安全製品を世界中に供給し、社会への貢献を自負しております。



2. ラオスへ工場建設を決めた理由

ラオスの首都ビエンチャンの郊外に工場の建設を開始したのは2007年になります。

2009年に安全靴の製造を開始しました。製造ラインの機械システムは全て日本の工場と同じものを使用しています。製造された安全靴はタイのバンコク経由で日本に輸出しています。ラオスに進出した様々な理由がありますが、まとめると次のような理由になります。

- a. LDC国 (Least Developing Country) の特惠優遇関税適用国である
- b. 電力が豊富にあり安定供給される
- c. 政治的に安定している
- d. 親日的で治安が良い
- e. 人件費が安価である



f. 日本語を理解できる人材が豊富

「ラオス人の、ラオス人による、ラオス人のための工場運営」を目指して操業を始めたわけですが、当初で一番苦勞した一つに従業員教育があります。

ラオス人には基本的に会社に勤めるという文化、習慣がない人も多く、遅刻や無断欠勤が始めのころは多く通勤の習慣を付ける所から教育しました。

次にラオス人はシャイ（恥ずかしがり屋）なのか挨拶をしない人が多いです。工場では必ず挨拶をする、朝出社したら挨拶をしようという習慣をつけさせました。これがコミュニケーションの第一歩となりました。次に遅刻や無断欠勤をしないように時間を守ることを教育しました。これには家族、特に母親の意識を変えなければならないので自宅を訪問し理解を得るよう努めました。

工場の生産を上げる基本である3S（整理・整頓・清掃）にも力を入れ、「どうせ汚れるのだから明日やればいい」といった意識の改革に努めました。

私が工場長でいた時は従業員500人ほどでしたが、現在は1,000人を超える規模となっています。

**ビエンチャン郊外にあるミドリ
安全本社工場**



ラオス工場開所式テープカット風景

カンボジア発表者

(5) スライ ソピン

「カンボジア国立工科大学に就職後3年間半の活動について」

2011年に精密機械システム工学科を卒業し
現在、国立ポリテクニック大学機械工学科勤務
スライ・ソピンさんからは「カンボジア国立工科大学に就職後3年間半の活動について」という
題目で発表があった。



1. カンボジア国立工科大学 (National Polytechnic Institute of Cambodia (以下NPIC))

NPICの創立は2005年5月で労働・職業訓練省の所管となっている。教員数は224名で構成は指導員が70%、事務職員が30%となっている。

3年制となっており1学年約700名おり全体で2,100名(2013年度)の学生が学んでいる。首都から車で40分ほど離れているため交通の便は余り良くない。



機械工学科で学ぶ学生の スナップ写真

NPICは日本でいえば職業能力開発大学校(ポリテクカレッジ)に似ており、卒業後は身に付けた技能、知識を活用できる会社に就職する。

公務員である教職員給与は、政府給与は正規職員と政府援助金に分けられ、正規職員へは残業代が一定額支払われる。正規職員でない者は契約職員給与が支払われる。

学生の授業料は学生負担が50%で、政府からの補助が50%の折半となっている。設備・機器及び運営費は政府が負担している。

NPICの学部と学科について、工学部として建築・土木工学科、電気工学科、電子工学科、機械工学科(機械加工科、自動車整備科、冷凍空調科)がある。他に観光学部があり観光/おもてなし科、調理科、経営学部(技術系)には工業会計科、外国語学部は資金援

助国である韓国語学科が中心で、他に中国語学科、英語学科がある。日本語学科はない。



機械工学科の機械加工実習風景。旋盤は韓国製。

2. NPICでの活動報告

私は現在、機械加工科の指導員として配属されている。

実習場には日本と同様旋盤、フライス盤、NC旋盤等が設備され機械加工実習が行われている。

講義（学科）は、機械力学、材料力学、機械設計及び機械製図を担当している。担当できる教員が少なく色々な学科を教えるので準備がたいへんである。



機械工学科の実習場（上）と専門学科を教えている授業風景（下）（筆者）



N P I C は、職業大の研修部のような組織的な研修を実施する部署を持っているわけではないが、自己啓発や現役指導員の研修は盛んに行われ資質向上を目指している。

一例は、近隣諸国から技術的に進んでいる分野の専門家に来てもらい専門家による技術研修を受ける機会がある。また、N P I C 内で相互に研修を行ったり、海外から研修を終えて帰国した指導員から伝達研修などを受けることもある。



シンガポールからの専門家による指導技法研修



N P I C 内での油圧循環研修（指導員研修）

日本との協力例として中央職業能力開発協会（J A V A D A）との協力が挙げられる。

2011 年から技能評価システムの研修や技能評価技法研修で技能評価基準の問題作成等を日本から専門家を派遣してもらいカンボジア指導員に研修を実施した。専門家には職業大の教員に来ていただいたこともある。

技能評価技法研修（旋盤 3 級）課題



3. 機械工学を学ぶ学生の現状と問題点

機械工学科学生は、地方出身者が多くその理由の一つに都市部の裕福層の学生が汚れ作業を嫌い、機械工学科の勉強をしたがらない傾向が強いためである。

しかし、国内では機械、電気関係の需要、就職先は多く全般的に機械工学卒業の学生が不足しており、現地日本企業のNPICへの機械、電気工学科卒業生への期待は大きい。



機械工学科実習場でのスナップ写真

NPICならではの活動としてキャンピングがある。年に数回早朝に先生と学生が食物、荷物などを手分けして運びながら近くのキャンプ場で食事や遊びを通して親睦と交流を深める。みんなで同じように汗をかきながら楽しくキャンプを行うことで地方出身学生と都市部の学生や教員、事務職員との融和、結束を強めるための行事の一つである。



早朝歩いてキャンプに向かうNPICの学生、先生達

カンボジア発表者

(6) 石川 末雄

「カンボジア王国10年間の交流活動から見てきたもの」

標記テーマを基に幸田町国際交流協会の石川末雄氏よりカンボジアについて発表があった。

まず、カンボジア国の基本情報について説明があった。



1. カンボジアの基本情報

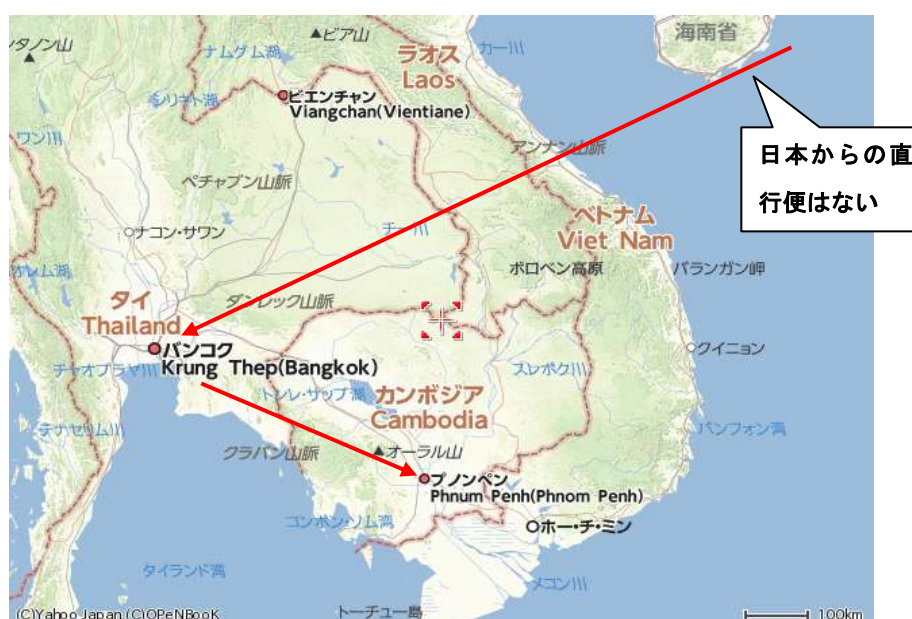


図9 カンボジアと隣国の位置関係

カンボジアは、図9の通りベトナム、ラオス、タイに囲まれた国で面積は18万1,035 K m² (日本の約半分) で人口は1,490万人となっている。首都はプノンペンで約135万人である。民族はクメール人が人口の90%を占めている。宗教は大半が仏教徒(上座部仏教)、国語はクメール語でだが、英語、仏語が一部通じる。

2. 10年の交流活動から見てきたもの

現在のプノンペン市内と周辺は、10年前のそれと比べ大きく変わろうとしている。

その一つにカンボジアに初めての経済特区・工業団地(SEZ: Special Economic Zone)の誕生を例に説明したい。この経済特区が出来たことでそれまでの韓国との交流が大きいカンボジアでも日本企業がカンボジアに力を入れ始めた。図10の通りPP-SEZではデンソー及び関連の自動車関連会社が進出を始めている。本経済特区には73社工場を建設している

がそのうちほぼ半分の 36 社が日系企業となっている。これはカンボジアの経済成長への正に「新しい息吹き」であり観光立国と農業国からの脱皮となるであろう。

街中には既に様相変化（好転）が見られる。自動車が増え、路上生活者が減り、着衣の向上がみられ、露天商などは減っている。これは中間所得者層の急増を示している。

今後の課題は幼児教育を含む若年者の教育・訓練になお一層の力を入れなければならないことであろう。特に技術・技能を持つ人材の育成が急務で職業大がその役割の一端を担うことを大いに期待したい。

かつてこの地域を治めていたクメール王朝のアンコール文化と近代産業が育つことで、かつての「強いクメール」の蘇生を願いたい。

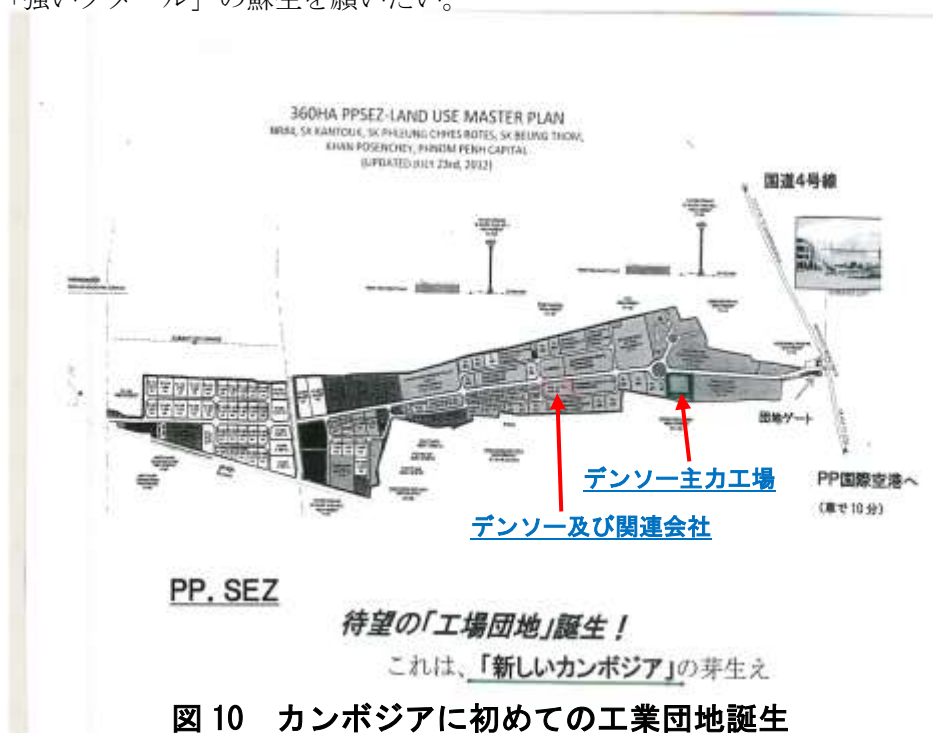


図 10 カンボジアに初めての工業団地誕生

3. 各大学、高校に「工学部の設置・育成」が急務

上記 SEZ 設立に誘発され、第 2 次、第 3 次の経済特区が生まれる可能性の中、下請け企業の発生が起これ産業（工業）基盤、すそ野の拡大は急速に進むと思われるが、技術、技能の基礎知識を持つ若者の育成が囑望される。将来のカンボジアを支える若年者の人材育成が急がれる。工学系の学科を学べる工業高校、大学の工学部数を増やしていくのが今のカンボジアに必要な喫緊の課題であると考えます。

この課題の解決の方策の一つとして国内での教育基盤の整備とともに、国内ばかりに留まらない教育の可能性について説明したい。例えばカンボジア青年の日本への短期留学や長期の渡航の容易化を提案したい。

日本で技術・技能の習得をする、日本語習得研修、出稼ぎ入国などの制度を緩和すれば教育の機会も多くなる。あるカンボジアの大学の教授が「日本で日本語と専門分野を学ぶ

青年は、同時に日本人のマインドも習得でき一石二鳥ではないだろうか。」と述べていた。

幸田町国際交流協会では、カンボジアの就学前幼児のために日本式「保育制度」の導入を支援している。カンボジアの経済活動が活発化するにつれて両親、家族の共働き、就労機会が増大し、幼児の世話や面倒をみるのが難しい状況になっている。国公立、私立の幼稚園、保育園の必要性が高まっている。

現行のカンボジア幼稚園はその園数の制限から午前・午後の2部制となっているがこれでは、両親や家族の共働きに対応が出来ない。幼稚園や保育園での預かり時間を倍増することにより、両親の共働きが可能となる。また、更にハード面（園舎建設）とソフト面（教師不足）に係わる制度改革も同時に必要と思われる。

ちなみに日本の「保育士」制度の導入すれば、女性の社会参加の機会増大に貢献でき、幼稚園教師の不足補充機能にも期待できる。

できる所から、例えばSEZ 誕生を契機に「SEZ 内保育所」の建設も一考に値するのではないだろうか。



図 11 共働きの両親の帰りを待つ幼児達



アンコールワット遺跡の夜明け風景

(昇る朝日のようにカンボジアの未来が明るくありますように・・・石川末雄)

ASEAN 諸国発表者

(7) 合澤 栄美

「東南アジア地域への国際協力 - 日本と東南アジアが共に発展するために - 」

発表者の最後はインドシナ半島を中心とした ASEAN 諸国への日本の協力について説明いただくため JICA（国際協力機構）の合澤氏から「東南アジア地域への国際協力 - 日本と東南アジアが共に発展するために - 」をテーマに説明があった。



1. JICA とは

JICA は日本の政府開発援助（ODA）の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。

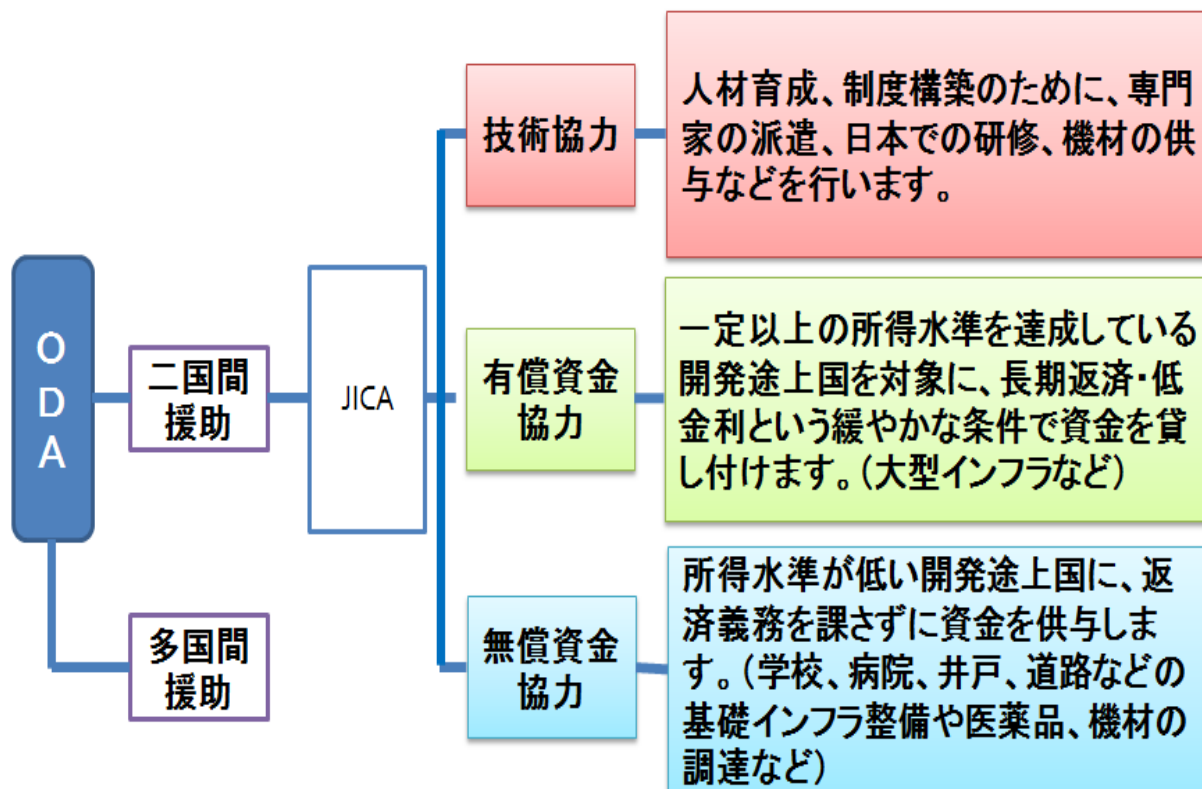
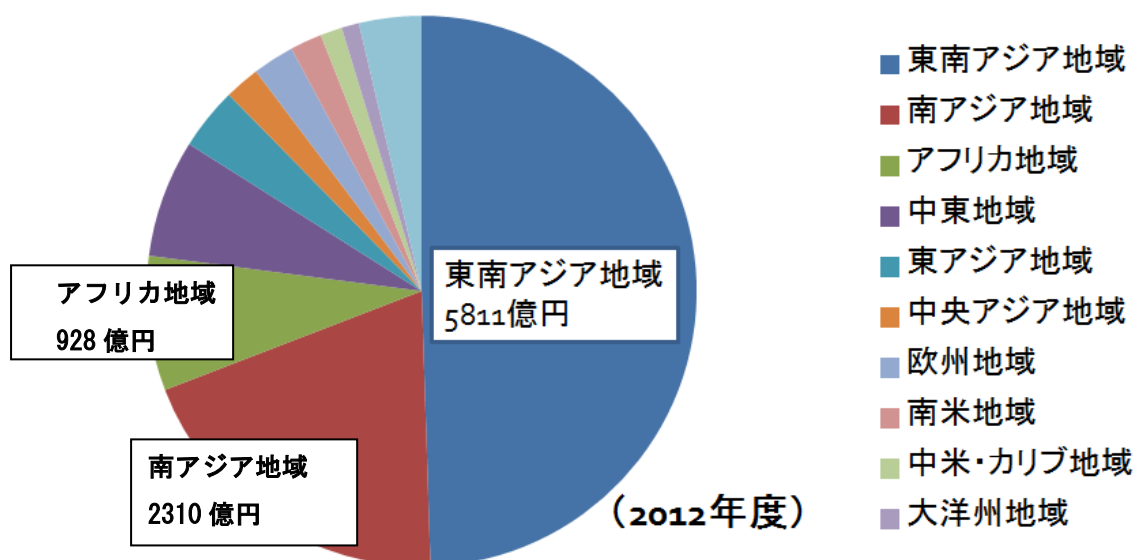


図 12 日本の政府開発援助（ODA）と実施機関（JICA）の役割



2. JICA の地域別事業規模

JICA の実施内容を事業規模で見ると、図 13 の通り全体の ODA 予算の約半分が東南アジア地域に向けられていることが分かります。(2012 年度)



出典：JICA 年次報告書 2013

図 13 JICA の地域別事業規模

3. 東南アジア地域(ASEAN)の概要

現在、東南アジアは世界で最も成長率が高い地域で、世界経済を牽引する役割が期待されています。

東南アジア地域諸国連合(ASEAN)の人口の総計は日本の 4.7 倍(約 6 億人)で世界の 8.7% を占めています。総面積は日本の 12 倍と広大です。

貿易(輸出+輸入)総額は約 2.5 兆円、日本の貿易の 1.5 倍となっており、日本の主要貿易相手国・地域の 14.8% を占めています。日本からの直接投資はこの 7 年間で 3 倍に増えました。これは今後、大きな可能性を持つ地域として期待されている事を示しています。



図 14 東南アジア地域 (ASEAN)

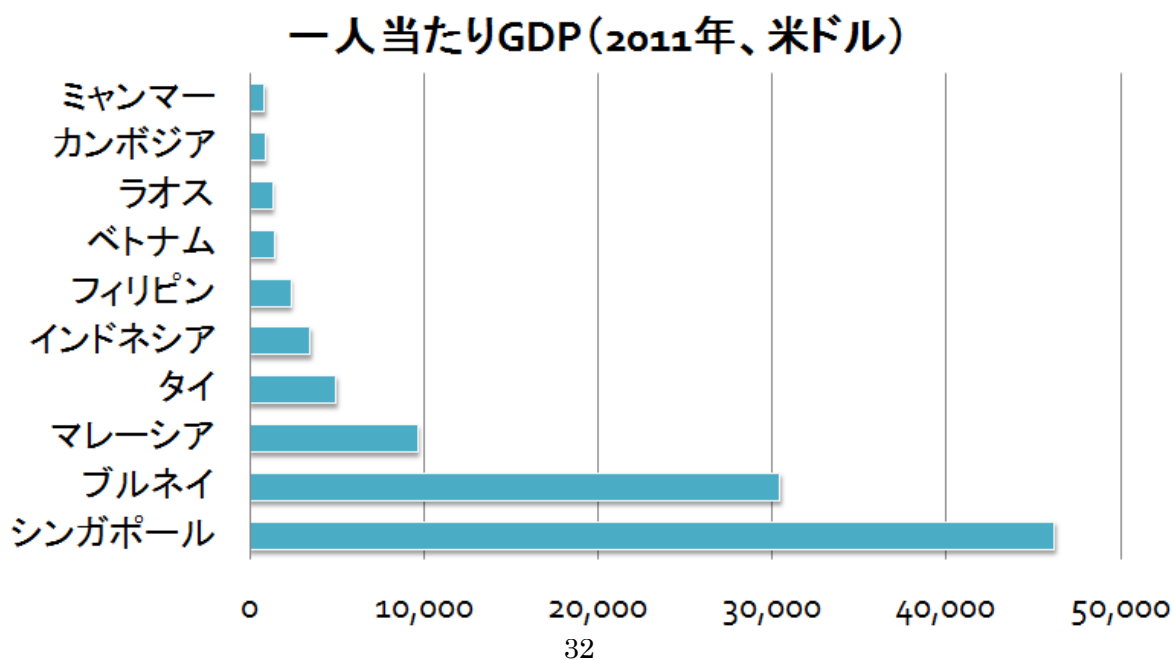
「目で見える ASEAN—ASEAN 経済統計基礎資料」外務省（平成 24 年 11 月）から

その一方で、域内および国内の格差拡大が懸念されます。例えば GDP（国内総生産）で比べるとシンガポールが 46,241 U\$ ドルに対してミャンマーは 869 U\$ ドルと 50 倍以上の格差があります。

また、多発する自然災害、環境問題などの国境を超える地域課題、高齢化のような新たな課題に直面している地域でもあります。

図 15 ASEAN 各国の一人当たりの GDP（米ドル）

「目で見える ASEAN—ASEAN 経済統計基礎資料」外務省（平成 24 年 11 月）から



4. 東南アジア地域(A S E A N)に対する協力

経済成長を後押しすると同時に、成長の恩恵が全ての人々に届くような開発を推進しています。A S E A Nの地域統合と持続的な成長が日本の経済の活性化にもつながることから、関係を深め、共に成長することを目指します。



図 16 ASEAN に対する協力

5. 産業人材育成に関する協力の例（カンボジア）

投資環境整備をハードとソフトの両面から進めています。



図 17 産業人材育成に関する協力の例（カンボジア）

6. 産業人材育成に関連する協力の例（ラオス）

投資環境整備を政策、制度面から支援するとともに、産業人材の育成を支援しています。




制度、政策面からの支援	産業人材育成
<p>➢投資促進アドバイザー 日ラオス官民合同対話の円滑実施の支援、投資セミナーの実施、日本企業の投資相談窓口としてラオスへの投資促進を支援</p> <p>➢税関アドバイザー ラオス関税分野における課題を抽出し、貿易円滑化を支援</p>	<p>➢ラオス日本センター・ビジネス人材育成プロジェクト ラオス国立大の一機関としてビジネス人材育成(MBAコースの提供) 日系企業との協力による研修、セミナー</p> <p>➢国立ITサービス産業人材育成プロジェクト ラオス国立大学工学部IT学科における実践的なIT産業人材の育成を支援</p>
	 

図 18 産業人材育成に関する協力の例（ラオス）

7. 産業人材育成に関連する協力の例（ベトナム）

ベトナム産業界への人材供給について産学連携を通じて支援しています。

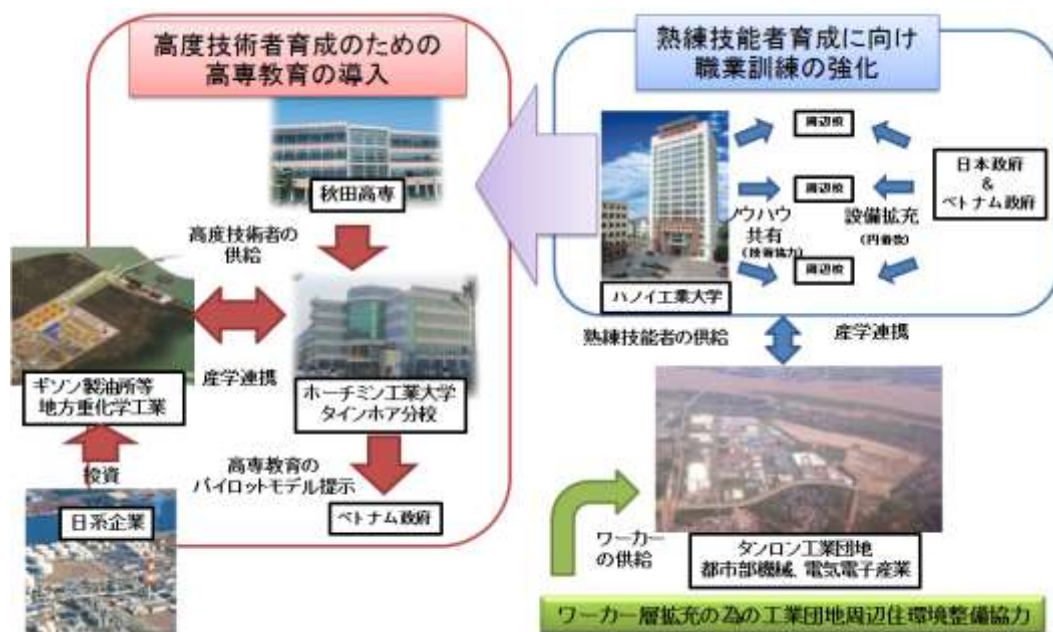


図 19 産業人材育成に関する協力の例（ベトナム）

8.まとめ

東南アジア地域は世界で最も成長率が高く、古くから日本との関わりも深い重要な地域です。持続的な経済成長を後押しする支援と同時に、格差を是正するような社会サービスなどの向上を目指す協力も必要であり、包括的な協力が日本に求められています。

特に産業の発展に資する人材の育成はいずれの国においても喫緊で重要な課題となっています。

日本企業の進出が進む中、国際協力を通じて企業が求めるレベルの人材が育成されることが、現地の経済、産業の発展、雇用の創出、生活レベルの向上等でその国の開発に貢献することとなります。

産業ニーズに合致した人材の輩出を企業と協力して行ってきた日本の職業訓練機関や高等教育機関の経験が望まれており日本の国際協力に貢献していただきたいと思います。



合澤氏発表風景

5 シンポジウム総合討議とまとめ

休憩後、今までの発表を基にワークショップ形式で討論を行い質疑応答や意見を述べることにより各国の理解を深めることとした。

15:30~17:00 (以下敬称略)

古川(司会・ファシリテーター:以下、司会と略)

ここから1時間少々、会場の方から質疑を頂きながら、スピーチされた方と議論を深めたいと思います。

AVETSは、相模原キャンパスを閉鎖し小平キャンパスに統合することになり、それを機に昨年度から開催し、今回が第2回目となります。昨年度のマレーシア、インドネシア、タイの人材育成や日系企業の状況に続き、今年度はベトナム、ラオス、カンボジアに焦点をおき3国の現状と職業大との関りについて討論をお願いすることとしました。

(1) 発表内容の整理・確認

司会

先ほどの佐野教授からのお話で、昨年度AVETSで取り上げたタイ、マレーシア、インドネシアというASEAN諸国の中での先進途上諸国に現地法人を置き、それに対してカンボジア、ラオス、ベトナムは労働人材を派遣する関係とおっしゃっていたように思いますが。

佐野(国内発表者:東南アジア全域)

ある会社では、日本の開発機能をバンコクに移し、ベトナムに組み立て工場を設けています。タイには60余りの工業団地があり、日本だけでなく韓国や中国、ヨーロッパなど他外国の支援も受けています。マレーシア、インドネシアも工業団地化が非常に進んでおり、また今回の対象国であるベトナム、ラオス、カンボジアでも新たな工業団地が生まれつつありまして、日本のマザー工場機能を、まず先進途上3カ国に移転し、そこを拠点にして展開するという流れが出来上がりつつあります。



佐野教授の説明風景

司会

この点に関して各国の留学生のみなさんのご意見をお伺いします。

シンダラー(ラオス卒業留学生)

ラオスはこれから発展する国なので、日本から一層の援助と協力をお願いします。

フン(ベトナム卒業留学生)

佐野先生のおっしゃる通りだと思います。以前はタイやマレーシアの工業団地に日系企業が多かったと思いますが、徐々にベトナムに進出してきているように感じます。

司会

そういう流れの中で、日本語に特化して教育するよりも、英語でのコミュニケーションに汎用性があるという話が何度か出てきたように思います。たとえば、韓国の機械が導入された場合は、韓国語で教育するのですか。

ソピン(カンボジア卒業留学生)

その場合は韓国語ではなく母国語で教育します。ただし、取扱い説明書は韓国語ですね。

司会

つまり、外国語のマニュアルを専門家が翻訳したものを理解して、母国語で教育するということですね。英語は使いませんか。

ソピン(カンボジア)

カンボジアでは、英語は学生が十分に理解できません。残念ながら、そこまで英語が普及していません。

シンダラー(ラオス)

ラオス労働社会福祉省では7つの職業訓練校があり、韓国が援助している学校が多くあります。当然、機器も韓国製が設置されていますが、教育訓練はラオス語で行っています。

司会者の質問に 答えるソピン氏 (カンボジア)



フン（ベトナム）

ベトナムでは、韓国のものより日本の機械が企業に導入されているので、教育も日本語とベトナム語が多いようです。



コミュニケーション 言語について答える フン氏（ベトナム）

司会

石川さんは、英語と母国語とどちらでの教育が良いと感じますか。

石川（国内発表者：カンボジア）

カンボジアの大学の先生に聞くと、日本人が思っている以上に英語、フランス語、クメール語を上手く使い分けているようです。

司会

原さん（ミドリ安全）、先ほどラオスの、ラオスによる、ラオスのための（Of Laos, By Laos, For Laos）発展という目標を掲げ、そのために挨拶がきちんとできるか、時間を守れるか、3S運動ができるかということを教えるとおっしゃっていましたが、それは日本語で教えているのですか。

原（国内発表者：ラオス）

私たちは日本語で説明しますが、現地の従業員は日本語が理解できないので、日本語のできる人材を幹部社員兼日本語通訳として雇い、彼らを通して伝えていました。

司会

日本語と英語と現地語の差は感じませんでしたか。

原（ラオス）

我々が自由に使える母国語は日本語なので私達にとっても外国語である英語では正確な意図を伝えることができません。日本語で話し日本語をきちんと理解する人に伝えてもらう方がスムーズに伝わると考えました。

司会

こういった人物がそのような役割を担うのですか。

原（ラオス）

日本に留学経験のある学生です。日本の大学を卒業後帰国したラオスに職がなく、やむを得ず日本に戻り民間企業に勤務していた優秀な人材を採用できました。彼らは、日本語能力はもちろん、日本で4年間以上暮らした経験から、日本人のスピリットもよく理解しています。ラオス人がラオス人に対し、「なぜそんなことも分からないのか」という場面もあります。

司会

話は飛びますが、ISO9000を取得されていると伺いました。その意味を現地従業員は理解されていますか。

原（ラオス）

先ほどの3Sや挨拶と同じく基本的なことは守ろうというのがISOの精神なので、決められたことを守ると品質がついてくるということは理解させています。

司会

ということは、やはり習慣づけが大切ということになりますか。

原（ラオス）

我々は海外のどこで作っても、日本の品質を要求されます。メイド・イン・ジャパンと同じ品質を、メイド・イン・ラオスで作ろうとすると、やはり日本人の持っているノウハウを彼らに教える必要があります、その中でISOの考え方も伝えています。

司会

なるほど、良くわかりました。ありがとうございました。

それでは話題をベトナムに替えて岡部さん、ご自身のご経験から現地の様子はどうですか。

岡部（国内発表者：ベトナム）

私が携わった経験で言いますと、ベトナムにはメッキ工場が少ないのでメッキ液の処理施設を政府がつくるという条件で、日本の企業誘致のお手伝いを行っています。青森県のある会社は、大手企業の下請けとして現地で500人以上雇用し、国内工場での生産を遥かに上まわり、かつ利潤を上げているそうです。日本企業にとっては非常に風向きが良い状況のようです。

司会

10年ほど前に中国に進出した日本企業が最近では人民元高に苦しんでいるようですが、それに比べると東南アジアの方は通貨が比較的安定していることが、風向きの良い理由でしょうか。

岡部（ベトナム）

そうです。加えて雇用が安定していることもそうですし、国を挙げて受け入れる努力をしている点が重要ではないかと感じます。



ベトナムの日本企業
を紹介する岡部氏
（青森県産業技術
センター）

司会

合澤さん、昨年度対象としたマレーシア、インドネシア、タイが目覚ましく発展してきているのに比べ、今年度の対象国は発展の余地がある地域ですが、JICAとしてどういう点を重視して支援して行くのかは国によって違いますか。

合澤（国内発表者：東南アジア全域）

ASEAN 地域の中でもマレーシア、インドネシア、タイは先進アセアンと呼ばれており、ベトナム、ラオス、カンボジアは、これにミャンマーを加えて、後発アセアンと呼ばれています。国同士でも違いますが、大きく先進と後発でアプローチが異なります。今は、長く助成してきた先進アセアン諸国と協力しながら、後発地域を支援するアプローチも増えてきています。

後発途上の4カ国の中では、基礎的な部分でのサービスが行きわたっていないという課題が深刻です。一方先進諸国では、先進化したからこそ出てくる新しい課題への対応、例えば高齢化のように、日本でも現在進行中の課題を共に考えるなど、さまざまなタイプのアプローチがあります。

司会

とはいえ、東南アジアへのODA支援額は5,000億円、日本の現状で行くと減っていく状況の中、各国への配分はどうしていますか。

合澤（JICA）

ODA自体が最盛期1995～97年に比べると約半分になっているので、当然選択と集中が

必要になってきます。その国が必要としている課題を見極めることも必要ですが、他国からの支援も目を配りながら、日本でしかできない支援を行うことを大切にしています。たとえばカンボジアだと教育の支援は非常に長い歴史がありますが、今は理数科教育向上の協力に重点を置いています。他のどの国もやっていない、日本が支援する意味があるところを選択しています。

(2) 全体討議

司会

会場に海外展開を考えタイに進出されている企業の社長さんがいらっしゃいます。そのご経験をお話いただけませんか。

会場

私どもの会社はトラックの荷台の製造です。このたび、縁がありタイに進出することとなりました。進出にあたり現地の中間管理職というかマネージャークラスで、日本語ができプラス挨拶、時間を守るといった日本では当たり前のことを部下、従業員に伝え切れる人を集めることに大変苦勞しています。職業大のような大学で、日本のマインドやスピリットを体験なさったASEAN諸国の留学生を是非増やしていただけないでしょうか。

また、国費留学生事業への全体の予算が少なくなっていく中で知恵を絞り、民間の力を活用したら良いのではないかと感じます。モノや金は企業で準備できますが、人の供給が困難である中、日本の海外進出を考えている多くの企業の方々が今日のこのシンポジウムすら知らないのが実態であり非常に残念です。

日本の納税制度の中では、例えば研究開発費の減税のように、海外留学生を受け入れている、職業大のような学校に民間企業が寄付をし、寄付分の税金を控除する制度があれば、手をあげる企業がたくさんあると思うのですが。

留学生の人材育成に意見を述べる参加者



そういった制度を設け、職業大のような施設で学生の育成をしていけば、現状我々が困っているマネージャークラスの不足が解消でき、また学生諸君にとってもプラスとなります。是非 JICA さんや厚生労働省の方で検討してください。

司会

政治的な部分もあるご提案なので、厚生労働省関係者の意見を聞きたいと思います。副校長お願いします。

谷中（職業大副校長）

4月から当校の副校長をやっております谷中です。3月まで厚生労働省におりました。私も経済界の方から、海外進出の際に現地との橋渡し役となる人材の重要性は聞いており、取り組むべき課題だと考えています。厚生労働省には本日のシンポジウムの中で出たご意見として伝えていきます。また、個人的には非常に良いご提案だと感じていますので、機会があれば関係省庁にも伝えたいと思います。

合澤（JICA）

税制については申し上げる立場にありませんが、日本企業の求める中間管理職候補者としての仕事ができる人材の必要性については認識しており、そういった課題を解決するための事業を1つご紹介します。「日本センター」という施設があり、現地の大学生や社会人を対象に、高度な日本語のコースを設け、日本のビジネスマナーや日本文化を学ぶ活動とおして、日本企業の期待に応えられるビジネス人材の育成をしています。この取り組みは、アセアン地域だけでなく、さまざまな国で行われています。ただ、そういったことが行われていることが皆さんに発信しきれていないようですので、知っていただくよう努力していく必要があると感じます。海外進出をお考えの日本企業の方にも活用していただける制度だと思います。



会場からの熱心な質問に真摯に答える発表者

会場

先ほど合澤さんから「日本センター」をご紹介いただきましたが、もう1つ紹介します。

技能実習制度という制度で「日本センター」が管理者層とすれば、技能実習制度は労働者層が対象です。アジア諸国から来日し3年間、日本の企業などでの研修を通して、日本語や技術を学び、帰国後、母国でそれを広めていただく制度です。先ほどおっしゃっていた日本のモノづくりのやり方を少なからず習得した人材ということになりますし、かなりの数の方がこの研修で来日されています。こういった制度を活用するのも一つの方法ではないかと思います。

司会

技能実習制度はどこで行うのですか。

会場

中国、ベトナム、カンボジア、ラオスなど様々な国の方々が、日本で研修をされる制度で、例えば水産加工業、工業、農業など幅広い分野で技術を学んでいます。

フン（ベトナム）

技能実習制度の送り出し機関のマネージャーをやっている立場から言わせていただくと、日本語だけでなく日本のやりかたを理解した人材の方が、管理職も動きやすいと感じます。

司会

会場からの指摘のうち一部はすでに制度があるようです。ご提案のあった減税制度と直接関係するものではありませんが、将来的に教育をすることで減税や控除につながるような形となればよいと願います。

ところで、シンダラーさんは技能検定の審査基準を作成されているそうですが、当校の建築システム工学科卒業でありながら、建築にとどまらず他分野の基準も作っていると伺いました。ご自身の専門から離れた仕事をするのは大変だと思いますが、どのように乗り越えているのですか。

シンダラー（ラオス）

ICT（情報通信技術）や自動車修理など、専門外の分野は全く分からないので苦労しましたが、ラオス国の法律、法令に照らし合わせながらルールを守り、専門家とコミュニケーションを取りながら共同で基準を作り上げて行くのが自分の仕事だと考えています。

司会

他の国ではそういった基準はだれが作成するのですか。

ソピン（カンボジア）

カンボジアでは、その分野に最も詳しい人材が選定されます。

フン（ベトナム）

私は残念ながら技能検定の審査基準について関わったことがなくわかりません。

岡部（ベトナム）

ベトナムでは、フンさんの先輩にあたる職業大の卒業留学生が、労働省の関係部局で技

能検定業務にかかわっていると聞いていますよ。

司会

シンダラーさん、技能検定の審査基準を作る作業というのは大変重要な仕事なので、これからも頑張ってください。

ところで、日本の技能検定が採用される一方で韓国の機器が導入されることもあると思いますがどのように調整しているのですか。

シンダラー（ラオス）

ラオスでは韓国が技術指導の中心となっていますが、私自身は日本の考え方をラオスに広めたいと思っています。ラオスに日系企業が多くなり技能検定などを通して日本の技術に近づくことが大切だと考えています。



技能検定の審査
基準作業を説明
するシンダラー
氏（ラオス）

司会

ありがとうございました。

ところで、先ほどの岡部さん（青森県産業技術センター）の話でベトナムの大学と共同で、建築廃材などのウッドセラミックをゴミ処理にうまく利用できないかという研究をしているというお話がありました。

アジア諸国でエコを視野に入れたものづくりはまだ早いのではないかと感じられる会場の方もいるのではないかと思います。

岡部（ベトナム）

ベトナムも水処理など環境に関する問題が出てきています。先程お話したメッキ工場誘致でもベトナム政府が処理施設を建設しています。確かに今は反応が薄いかもしれませんが、将来的に日本が特化すべき技術としてエコというキーワードは必ず必要になって来るでしょう。私たち日本人の強みであるものづくりと組み合わせた“エコものづくり”技術

は、グローバルな視点からも日本が優位に立てる分野となるのではないかと思います。

司会

原さん（ミドリ安全）にも伺います。ISO9000のことを先ほど伺いましたが、ISO14000すなわち環境配慮基準については、現地工場ではまだ取得の必然性はないのですか。

原（ラオス）

必要がないというより、環境に関する法律ができていないというのが正確なところですか。ISO9000は日本の機関の認証を受け取得しました。ラオスにはまだそのようなものはありません。

ところで、先ほどの人材育成についての話の中で一部補足します。ラオスの国費留学生は日本政府が費用を出しています。彼らは日本の大学を卒業しますが、そこでは理論教育が主で、自国に戻っても管理部門に勤めたがり、生産現場に出て働こうという気持ちを持つ学生が少ないと感じます。日本の税金なのに上手く活かせていない。そういう学生を一旦職業大が受入れ、技能を習得できる教育訓練をしてもらって、その後希望する日本企業に紹介するという事業はいかがでしょうか。また、企業からの要望も取り入れた実技中心のカリキュラムを考え、職業大で人材を育成するという事業も一案ではないでしょうか。

会場

話の途中で客席から申し訳ありませんが補足させてください。当校以外の一般の大学でいえば原さん（ミドリ安全）の言うことはよく分かりますが、職業大は実学教育をしっかりやっていたらいい。普通の理工学系の大学よりずっと生産現場に近いことを教えています。先程申し上げた通り、日本の国費留学生をもっとこの学校に入れて実技の再教育をしてほしいと思います。学校側としては言いづらいと思うので会場から発言させてもらいました。

司会

ありがとうございます。我々も多角的にアドバイスをいただきたいと考えています。

ところで、留学生のホストファミリーだった方にご来場いただいているそうですが、一般的なコメントをいただけますか。

会場

ホームステイを通して職業大の留学生と長年交流してきましたが、彼らはそれぞれの国に帰ってから活躍する力は十分持っています。帰国して、母国で今までの知識と技術を活かして活躍できる、そういう場が用意されていることを願っています。

司会

日本の両親として留学生を長く見ていただいているホストファミリーのみなさんには、これまで250名くらいの留学生がお世話になりました。残念ながら職業訓練指導員長期課程が廃止になり留学生事業も止めざるを得なくなった結果、ホームステイもお願いできなくなりましたが、来年の4月から1年間の留学制度が新しくできることになりました。入学前に3か月を基本にまず日本語の復習をし、4月から本学で学びます。初年度は本学の

卒業生 4 名が留学予定なので、彼らとの交流もお願いいたします。



**会場のホストファミリー
からの意見**

ところで、ソピンさんはカンボジアの NPIC で幅広く沢山の科目を担当しているようですが授業の準備などで大変ではありませんか。

ソピン（カンボジア）

すごく大変です。（笑）国立大学自体に教員数が足りないので、実習と講義で全然違う科目を教えたり毎年違う科目を担当したりといったことがよくあります。専門外の教科を教えるときは、深夜までかかって勉強しています。

司会

カンボジアの発展のために是非頑張ってください。シンダラーさん、中国の技能大会に参加された感想をお願いします。

シンダラー（ラオス）

この大会は、韓国企業が自社の技術を広めるために後援をしているそうです。韓国や中国が活発に技術を広めるのに対し、日本からのそのような援助はまだまだ少ないと感じます。例えば、職業訓練校を建設するとか技術指導ボランティアを派遣するといった支援がこれから増えていってほしいと願います。

司会

さて、石川さんにお話いただいた中でカンボジアに工業団地が作られ、日系企業に注目されつつある中、日本語や日本マインドや精神の養成が重要というお話がありましたがそれについて詳しくご説明いただけますか。

石川（カンボジア）

先ほどの発表に付け加えることは特にありませんが、今カンボジアはかつての日本がアメリカに学んだように日本の技術を吸収したがついています。どんどん日本に来ていただい

で日本の良いところを学び取っていただくような制度をカンボジアのためにやっていただきたいと思います。

今までの話を聞いて職業大がこのように様々な活動をしていることを知りましたので、思い切って職業大カンボジア分校をあちらに建設いただき人材育成に協力・支援されればと感じました。

司会

ありがとうございます。職業大は本校が中核になりますが、全国に別に2年制+2年制の職業能力開発大学校が10校あります。更に各都道府県に求職者、在職者向けのポリテクセンターがあり、そういった施設が力を合わせて国内技術者の育成だけでなく、国際的な展開ができるような人材育成する取り組みを行って行きたいと思います。

では、そろそろ時間ですので、会場の方から質問を受け付けます。

(3) 質疑応答

会場

原さん（ミドリ安全）にお伺いします。ラオスに進出した当初、機械の操作を指導したのは日本人ですか。

原（ラオス）

ラオス進出が決まった際、まずは幹部候補となる文科省大学卒業の国費留学生を2名採用し、うち1名に国内関連会社の工場です1年間機械の操作を学ばせました。その間に、ラオスで幹部をフォローする人材を募集し彼らも研修生として来日させ、同じ工場です機械の使い方を学ばせました。



**会場参加者との
質疑応答**

会場

すでにタイに進出し、ラオスにも進出する計画を立てたある企業が、タイ語とラオス語が似ているのを利用しタイ人にラオス人を指導させたという話を聞いたことがあります。ミドリ安全さんも、バンコクに工場をもっているのかと思ったわけです。

原（ラオス）

JIS マークの関係上、かつては国内でしか安全靴を製造できませんでしたが規制緩和の流れの関係で初の海外工場としてラオスに進出しました。縫製業では、すでにバンコクに工場がありそこからラオス進出というパターンが多いと聞いています。私どもは、日本からの直接投資により建設された工場として、更に JIS 認定工場の第 1 号を取得工場としてもラオス初でした。

会場

ラオスでは離職率が非常に高いと聞いていますが、実際どのくらいですか。

原（ラオス）

平均して月に 8% ほど辞めていきますので、単純計算すると 1 年で全従業員が入れ替わってしまいます。(笑)

ただ、根気のある子はこの 5 年間で工場長クラスになり日本でも研修させるなどきちんと勤めれば報われる制度を設けています。

会場

もう一つ、作った製品を運ぶルートはタイ経由か、ベトナム経由どちらですか。

原（ラオス）

タイです。日本国内向けの製品ですので、全てバンコク経由で日本に輸送します。



会場からの質問に答える
原氏（ミドリ安全）

会場

先ほどの説明の中で、ラオス進出理由の中に日本語ができる人材が豊富という説明がありましたが、私の私的旅行でビエンチャンを訪れますが、日本語ができる人材に会ったことがありませんが。

原（ラオス）

街中には少ないと思いますが、つてを頼っていくと留学経験者も多くいます。

また、「ラオス・日本人材センター」という施設がラオス国立大学の中にあり、そこに行くくと日本語を勉強している方に会えますよ。

会場

ラオスの治安は良いのですか。

原（ラオス）

他と比べると安全な国だと思います。東南アジアの国によっては街中で拳銃を見かける国も多いのですが、私が在勤していた当時は少なくとも拳銃を見ることも、拳銃事件もありませんでした。

司会

ありがとうございました。最後に先ほど石川さんの発表時間内で紹介できなかったカンボジアの遺跡、世界遺産についてお聞かせ願いますか。



カンボジアとタイの国境付近にあるプリア・ヴィヘア遺跡

石川（カンボジア）

カンボジアには代表的な2つの世界遺産があります。アンコールワットとプリア・ヴィヘア遺跡で、後者はカンボジアとタイの国境上にあり崩壊がひどく早急な修復が必要とされています。

これらは素晴らしい遺跡ですので、ユネスコや各国が協力し合って修復をしていただきたいと願っています。まずはカンボジアの首都プノンペンと日本を結ぶ直行便を開通していただき多くの日本人が訪れてほしいと思います。プリア・ヴィヘア遺跡は人類共同の遺産といっても過言ではありません。この修復を是非国際協力でしていただければと願っております。

司会

時間になりましたのでここで終了とします。まとめの考察をする時間が取れませんが、シンポジウムの内容は職業大のホームページに掲載する予定です。

本日はありがとうございました。(了)



シンポジウムの総合討議は、前半の発表を基にワークショップ形式で会場と討論を行い質疑応答や意見を聞き、3国の理解を深めることができた。

6 編集後記

昨年12月相模原キャンパスで開催されたタイ、インドネシア、マレーシアに引き続き、今年も「アジア職業訓練シンポジウム」を無事開催することが出来ました。東南アジアから来ていただいた3人の卒業生の皆さん、また仕事が忙しい中資料の作成や発表の準備をいただいた発表者の皆様、ご協力をいただき誠にありがとうございました。

今回はアジア諸国の中でも最近注目され始めているベトナム、ラオス、カンボジアの3国に焦点を当て各国の基本情報、職業能力開発、人材の育成上の相互協力等についてご意見をいただき充実した討論となったと思います。

本シンポジウムは、留学生が卒業後自国に戻り指導員、行政官として、あるいはその後公務員から転職し、民間の能力開発関連事業所等でどのような活躍をしてきたかの経験や足跡を紹介する目的があります。また各国の現況など基本情報を知るとともに日本企業の現地展開、日本の国際協力などを話題としてシンポジウムを進めています。そしてこのシンポジウムを通して本留学生事業の意義を改めて認識し直す格好の機会となっています。

質疑応答の時間では、会場から国費留学生制度がなくなったのであれば職業大の自主事業として開発途上国の若い人材を受け入れ教育訓練してほしいという意見がありました。次の世代を担う東南アジア諸国からの外国人留学生に奨学金の支援を行うことは企業・団体がするので、職業大では留学生を受け入れ教育訓練をお願いしたいという意見です。

この意見には賛同する企業の方や行政側から現在ある制度の活用例などの説明もあり、多くの方から興味を持ってご意見をいただきました。海外展開を考える上で両国を理解し、行動できる人材が求められる現在、これに職業大が応えてほしいという趣旨でした。

また、文科省系等職業大以外の工学部を卒業した学生に更に将来海外で活躍できるスキルを職業大で訓練できないかという意見が出ました。

以上の意見を総合して考えると、今後とも開発途上国らの留学生を受け入れる体制を職業大で堅持しつつ、本学総合課程の学生が社会のグローバル化に対応し海外諸国で活躍できる素養を身につける人材の育成が必要と思われる、今後職業大の国際協力の将来構想を考える上で参考になる意見かもしれません。

職業大の開発途上国への技術協力、国際協力の歴史は巻頭の古川校長の「はじめに」及び機構理事長からの祝辞にも述べられているとおりです。

法律の改正により東南アジア諸国の職業訓練指導員を養成する国費留学生事業は廃止になりましたが、平成26年度からは現役の職業訓練指導員の養成訓練課程を新たに創設

し、留学生の受け入れとして東南アジア諸国の指導員の資質向上を図る事業が開始されます。

今後とも従来の実績を堅守しつつ、300名近い国費留学生や開発途上国指導員との強固なネットワークを活用して職業大がリード役となって開発途上国と日本とのより良き産業関係の構築、特にわが国の中小企業の海外展開と現地ものづくり人材との円滑な関係構築に支援や貢献できればと思います。

企業の方や学生、教職員、その他関係者のご意見やアイデアが将来実を結び実現するように今後も本シンポジウムを継続して続ける意義は大きいと思われま

す。職業大の卒業留学生が自国の職業訓練政策や経済活動を通して日本との交流の懸け橋的役割を果たしていることは揺るぎない事実で、その中で卒業生は職業大で学んだ知識や人脈をいかんなく発揮して両国の相互発展、近隣諸国相互の発展のために活躍している事は頼もしい限りです。それは国費留学生制度の本来の趣旨、目的にも合致していると思われま

す。最後に在学中の26名の国費留学生を含め、本校留学生の今後の活躍を祈りたいと思

2014年1月

職業大フォーラム実行委員会
アジア職業訓練シンポジウム作業部会
学生部国際協力課

MEMO

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for writing a memo. The box is mostly blank, with a small icon in the bottom right corner.



**職業大フォーラム
アジア職業訓練シンポジウム
写真資料**

【写真資料】 職業大フォーラム

平成 25 年 11 月 30 日 アジア職業訓練シンポジウム



古川校長主催者挨拶



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長祝辞

(今井靖公共職業訓練部調査役挨拶)



シンポジウム発表風景（3号館階段教室後方より）



卒業留学生発表者：チツ・ティエン・フン氏（ベトナム）



シンポジウム発表者：岡部敏弘氏（ベトナム）



卒業留学生発表者：シンダラー・インタウォン氏（ラオス）



シンポジウム発表者：原宏昭氏（ラオス）



卒業留学生発表者：スライ・ソピン氏（カンボジア）



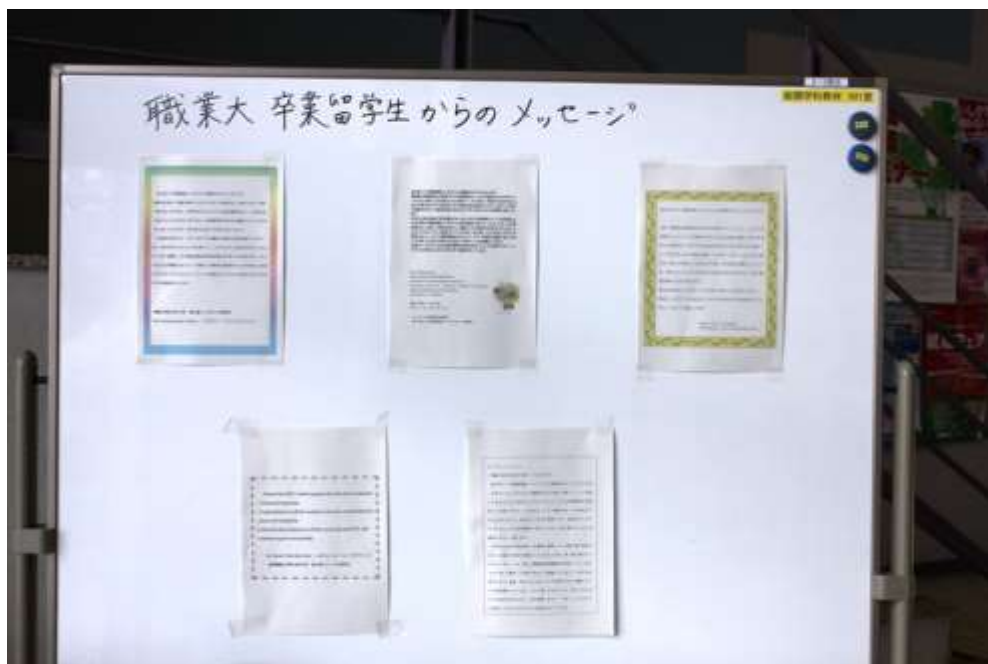
シンポジウム発表者：石川末雄氏（カンボジア）



シンポジウム発表者：合澤栄美氏（東南アジアへの国際協力）



シンポジウム後半の討論及び会場との質疑応答風景



各国卒業留学生からのメッセージ（3号館入口）